



手足のふるえーパーキンソン病

## 原因精査し治療を



りました。

パーキンソン病は、主に中高年に発症する病気で、人口10万人当たり100人程度の患者さんがいると推定されています。遺伝はほとんど関係ありません。パーキンソン病の特徴的な症状は、手足のふるえ(振戦)、筋肉や関節の動きが硬くなる(固縮)、動作がゆっくりになる(算動)、転倒しやすくなる(姿勢反射障害)などです。原因は脳内のドーパミンというホルモンが減少することで発症します。なぜドーパミンが減少するのかは、はっきりと

した原因は現時点では不明です。

病気の初期には左右どちらかの手が足が安静にしているときにふるえることが特徴です。手足のふるえには他にもいくつかの種類があり、パーキンソン病以外にもさまざまな原因から発生します。決して年齢のせいではふるえることはありません。

また、歩くときに歩幅が小さくなる症状(小刻み歩行)もパーキンソン病の特徴です。姿勢が前のめりになり歩き始めると急に止まれなくなり、他にも声小さくなったり、表情が硬くなったりすることもあります(仮面様顔貌)。

これらの症状に気がついた場合は、「(脳)神経内科」を掲げる医療機関への受診をお勧めします。専門医の診察と新しい画像診断検査を組み合わせることで臨床診断の精度が向上しています。

近年、パーキンソン病の治療には著しい進歩があります。iPS細胞移植治療は近い将来実現しますが、現時点では薬物およびリハビリテーション治療が中心になります。薬物治療とリハビリテーションを組み合わせることで確実な治療効果が見込まれます。

(明石市医師会 藤田賢吾 医師) 神経内科

# 健康 つしん

1817年、英国人医師 ジェームズ・パーキンソンが「手のふるえと動かしにくさ」という論文を初めて報告して、今年はずいぶん200年目の年に当たります。これがのちにパーキンソン病と呼ばれるようにな